

日本史研究推進委員会

共同研究「日本史探究をどのように教えるか」経過報告

神奈川総合産業高校 高橋 俊介

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月からの活動が中止されていましたが、県立学校の教育活動等の再開に伴い8月から再開されました。恒例となる8月の日本史サマーセミナーは感染防止対策を講じながら横浜翠嵐高校で、9月以降は月例会を推進委員の所属校などを会場に開催しました。ここでは、月例会と日本史サマーセミナーを中心にご報告します。また、コロナ禍の状況下で、会場を提供していただいた各校の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1 月例会 月／会場（内容）

共同研究テーマを「日本史探究をどのように教えるか」とし、新科目「日本史探究」を見据えた神奈川の地域史と教材研究を行いました。各月の会場(内容)は、8月／神奈川総合産業（サマーセミナーの検討）、横浜市西公会堂（サマーセミナー準備発表）、9月／神奈川総合産業（年間計画の検討）、10月／希望ヶ丘（岸根基地反対闘争）、11月／鎌倉学園（鎌倉国宝館の見学、中世文書を使った教材）、12月／大磯（柳島村名主藤間柳庵、日本史探究について）、1月／横浜翠嵐（「日本史探究」から古代史学習へのアプローチ、最上徳内と関東蠟製法の展開）でした。3月例会は1年前に中止となった神奈川県立歴史博物館において、緊急事態宣言の影響で臨時休館となり、公開されず展示期間を終えた令和2年度かながわの遺跡展「相模川 遺跡紀行～3万年のものがたり～」を展示担当者のレクチャーを受けながら見学しました。近年の発掘成果や貴重な遺物を通して、相模川流域における人々の暮らしをうかがい知ることができました。博物館と高校の博学連携を深める意見交換会も行い、教材の共同研究と共同開発をめざす前向きな方向性で一致することができました。

2 日本史サマーセミナー

8月19日～21日の3日間で横浜翠嵐高校を会場に「日本近現代史をどう教えるか」を共通テーマに、1日目は「戦後日本史を考える視点」、2日目は「戦争／女性を考える視点」、3日目は「戦後日本政治を考える視点」をテーマとして実施されました（詳細は別稿参照）。各日とも午前は高校生を対象に大学教員や研究者の講義を、午後は教員を対象に高校教員が授業提案の報告を行い、最後に1日の講義を受けての研究協議を行いました。研究協議では「歴史総合」の授業や理念について議論になりました。教員が“教え込む”からいかに脱却し、生徒が“問い”を“自分事”として思考できるような授業づくりが重要だということを共有することができました。

3 その他

冬季巡検は茅ヶ崎・大磯方面で行われました。茅ヶ崎では、江戸時代に相模国高座郡柳島村の名主を勤め、農業と廻船業を営んでいた藤間家の旧藤間家住宅を訪問しました。幕末の当主である藤間柳庵が書き記した『太平年表録』などの見学を通して、柳庵のような地域の知識人層の足跡に刺激を受けるとともに、地域史の教材化について考えるきっかけとなりました。大磯では、かつての高麗寺の末寺であった慶覚院、古墳時代の横穴墓である釜口古墳、楊谷寺横穴墓を見学しました。

最後に、本委員会は新採用の若手から中堅やベテラン、再任用まで最新の歴史研究や新科目の教材研究に関心のある人が集まっています。ここでの研修と研究成果は、県内の先生方に紹介するとともに、多くの生徒に還元できることを目指しています。活動に興味を持たれた方は、若手からベテランまで関係なくご参加ください。詳しくは神奈川総合産業高校の高橋までご連絡ください。